

滋賀県女性医師

2020年(令和2年)3月

ネットワークだより

vol.9

2019年の活動を振り返って

ごあいさつ

女性医師ネットワーク会議は滋賀県内の病院・医院などで働いている女性医師(滋賀県医師会・滋賀県病院協会・滋賀医科大学で構成)の集まりです。女性医師のみならず男性医師も含めたすべての医師のワークライフバランスを考えて活動しております。毎年交流会を行っていますが、今年も2019年11月30日(土)にロイヤルオークホテルにて「第8回滋賀県女性医師交流会～本音で語ろう、どこで、どんなキャリアを磨くか～」を開催いたしました。若手の先生や学生さんが今後の参考にできる会にしようということで、5名の多彩なキャリアをお持ちで、色々な年代の先生をお招きしました。今年は60名(女性79%、男性21%)にご参加いただきました。(内訳は、医学部生22%、大学院生3%、非常勤勤務医5%、常勤勤務医40%、開業医11%、病院長8%、その他11%)全体の34%が30歳代まで(うち17%が20歳代まで)という若い世代の会となり、現場の事情に沿ったディスカッションができたのではないかと感じております。働き方改革法が2024年4月より医療現場にも適応されますが、その内容についても丁寧に情報を共有できました。

会の後半では、滋賀県内57病院すべての病院長に対して行った「働き方改革等への取り組みに関する

滋賀県女性医師ネットワーク会議

会長 梅田 朋子

滋賀医科大学 地域医療教育研究
拠点准教授/独立行政法人 地域
医療機能推進機構滋賀病院
乳腺外科診療部長



アンケート調査」の結果(44病院回答、回収率77%)をご紹介し、病院長の先生方にもご発言いただきました。女性医師を含めた若い先生の活躍はこれからの医療現場にとっては不可欠であり、子育てやライフイベントに対するサポートの充実やキャリアアップ可能な環境を整えていくことが重要です。沢山いただいたご意見をもとに今後の活動に生かしていこうと思います。これからもご支援をよろしくお願いいたします。

最後に、貴重な休日にご参加いただいた皆様に、御礼申し上げますとともに、この会を支えてくださる、滋賀県医師会、滋賀県病院協会、滋賀医科大学、滋賀県医師キャリアサポートセンターの皆様に感謝いたします。



2019年11月30日(土) 第8回滋賀県女性医師交流会



会場の様子

第8回

滋賀県女性医師交流会 報告

「パネルディスカッション」

第8回女性医師交流会では、滋賀県女性医師ネットワーク会議がパネリストとしてお招きした5名の先生方にそれぞれのキャリアやワークライフバランスの体験談についてご講演いただきました。

まず1人目は、滋賀医科大学生化学・分子生物学講座再生修復医学部門特任助教の大橋夏子先生です。大橋先生は現在卒後11年目で、「診療しつつ、研究しつつ、子育てしつつ」をテーマに、これまでのキャリアパスや、仕事と育児を両立させるためのアドバイス、とくに若い先生方や学生さんに対しては研究の面白さについて、ご自身の経験をもとにお話いただきました。

2人目は、地域医療機能推進機構滋賀病院外科の辰巳征浩先生です。辰巳先生は現在卒後4年目で、将来は乳腺外科医を目指されています。「女性医師の中での男性医師の主張」をテーマに、職場環境を円滑に保つためのアドバイスとして、普段の会話やコミュニケーションの大切さなどについてお話いただきました。また、医師になる前には獣医師をされていたそうで、普段あまり聞けないような獣医師時代の動物病院や市役所での勤務についてのお話もしてくださいました。

3人目は、草津総合病院病理診断科部長の竹村しづき先生です。竹村先生は、卒後20年目で、「病理医としてキャリアをみがく」をテーマにご講演いただきました。波乱万丈のキャリアとのことで、これまでの人生の様々なイベントについて、その都度どのように乗り越えてこられたかを熱くご講演いただきました。病理医の仕事やキャリアパスについてもお話いただき、若い先生や学生さんたちにとっても非常によい機会であったと思います。

4人目は、大津赤十字病院外科の松林潤先生です。松林先生は、現在卒後12年目で、奥様は小児科医を



パネリストの先生

されており、小学生から乳児まで3人のお子さんの子育てをされています。「常勤夫妻の子育てあるある」をテーマに、子供の突然の発熱時の対応や、家事の分担法といった具体的なお話をいただきました。会場の皆さんからも多くの質問がありました。

最後は、大津赤十字病院第三外科副部長の洲崎聡先生です。洲崎先生は、「気がつけば30年外科医をやっていました」と題して、女性外科医としてのこれまでのキャリアや様々な困難などについてどのように乗り越えキャリアを継続させてこられたかについてご講演くださいました。特に、「多くの医師はフツウであり、医療現場に居続けることが大切」、という先生の言葉に感銘を受け、勇気づけられたという意見がありました。

今回5人のパネリストの先生方にそれぞれのご経験をもとに、とくに若い先生方や学生さんに対してキャリアアップの際のアドバイスをいただきました。活発な質疑応答も行われ、参加者からは、男女幅広い年代の先生方から身近な経験について多く聞けた、実体験に基づきとても熱心にご講演いただけた、非常によかったとの感想をいただきました。私も含め、多くの参加者がたくさんのことを学ばせていただけたパネルディスカッションであったと思います。改めて、ご講演いただきました5名の先生方に感謝申し上げます。（山原 真子）



会場からの質問

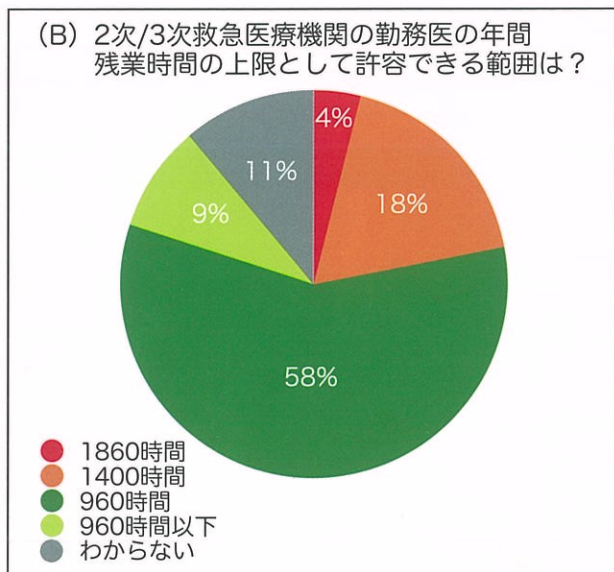
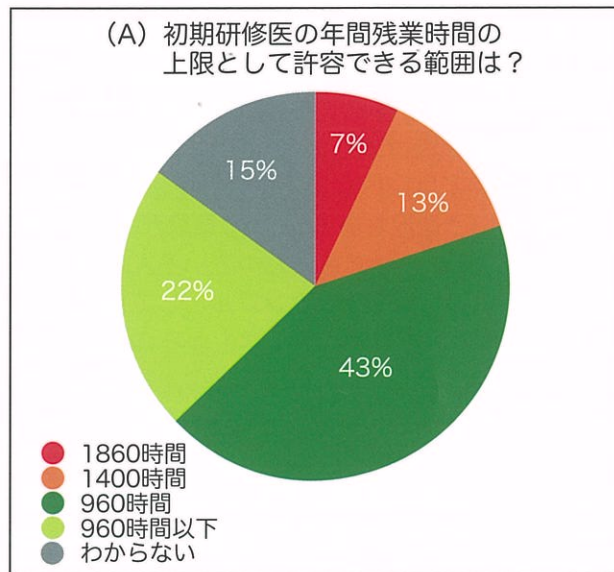
「働き方改革について」

2019年の労働基準法改正で時間外労働の上限が法律に規定されたため、主な規制内容について当会議委員の有田がスライドにまとめて紹介しました。医師に関する上限は今後省令で定められる予定ですが、そのベースとなる「医師の働き方改革検討会報告書(座長:岩村氏)」(以下、岩村報告書と略)の内容も紹介しました。

その後、クリッカーを利用した即時アンケート(当会議委員の加地担当)で会場の皆様に労基法改正についてお尋ねしましたところ、改正内容について「あ

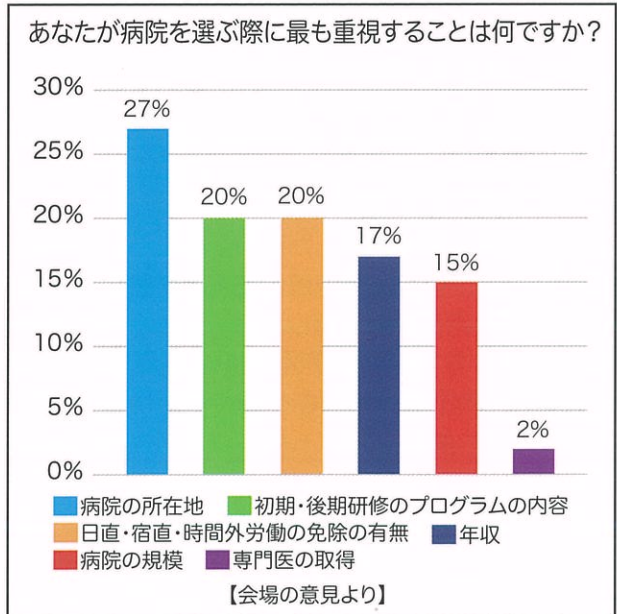
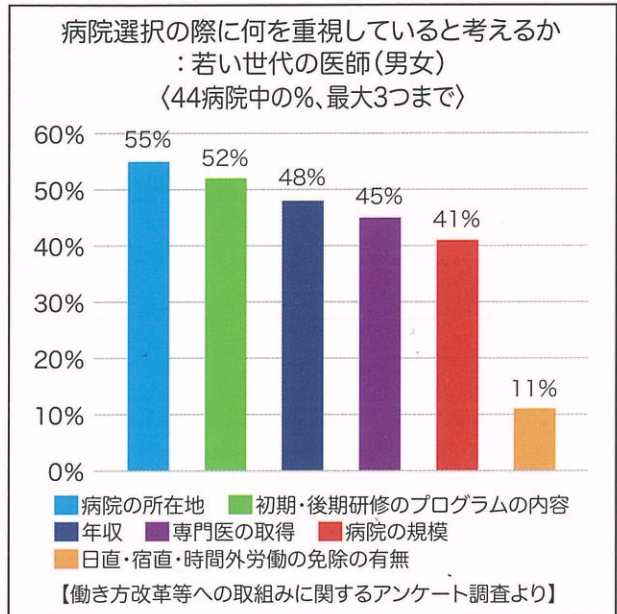
まり知らない 58%][全く知らない 15%]、時間外労働と休日労働の法律上の定義(意外とヤヤコシイ)について「あまり知らない 40%」「全く知らない 45%」という結果で、法律の内容への理解は広がっていないことが分かりました。

上記の岩村報告書では一般病院の勤務医の時間外労働+休日労働の上限を年間980時間としていますが、これについてのクリッカー質問では会場参加者の55%が「妥当」との回答でした。岩村報告書では、(A)初期研修医、(B)2次/3次救急医療機関の勤務医、の時間外労働+休日労働の上限を、(A) (B)とも年間1860時間と提言しています。これについて、クリッカーで会場の皆様のご意見を伺いましたところ、年間残業1860時間を妥当とする意見は(A)7% (B)4%しかなく、一般病院の勤務医と同じ960時間またはそれ以下とする意見が(A)65% (B)67%と多かったです(円グラフ参照)。このような形で、会場の皆様の率直なご意見をその場で共有できたのは大変有意義でした。(有田 泉)



「アンケート報告」

次に、働き方改革等への取り組みに関するアンケート調査の結果を当会議委員のト部が報告しました。まず、事前に滋賀県病院協会に所属する57病院に対し、医師のワークライフバランスや働き方改革への対応状況、ビジョンなどについてアンケートを送付し、各病院の病院長より回答をいただき、この結果を今回の交流会で報告しました。



アンケート内容は、①勤務体制について、②医師の働き方改革について、③託児について、④勤務環境について、ですが、「若い世代の医師(男女)が病院選択の際に何を重視していると考えるか」との問いに対し、1. 病院の所在地、2. 初期・後期研修の研修プログラムの内容、3. 年収、4. 専門医の取得、5. 病院の規模であるとの順での割合が高い回答でした。同様の質問を会場でクリッカーにておこなったとこ

ろ、1. 病院の所在地、2. 初期・後期研修の研修プログラム内容、3. 日直・当直・時間外労働の免除の有無、4. 年収、5. 病院の規模、との意見でした。

また「女性医師の病院勤務を中断させないために」との問いに対しては、病院側では1. 保育施設などの社会環境の整備、2. 育児休暇取得の保障、3. 育児・介護中の医師の代替医師制度、4. 医師数の増加、5. 過重勤務環境の緩和の順で高い回答でしたが、会場の意見は1. 保育施設などの社会環境の整備、2. 代替医師制度、3. 家族の理解、4. 医師数の増加、5. 育児休暇の保障、との意見でした。

このことから病院側と会場内(医師、医学生、事務職含む)で若手医師が望んでいると思われる考えとはおおむね合致し、病院は若手医師の希望を考慮しているであろうとの結果でした。

また、アンケートの際、病院長あてに、①「若い医師への一言」②「貴院の働き方改革に向けた取り組みをアピール」の2点に関し自由記載をいただいたところ、①医師人生の先輩として愛情あふれ、熱意のこもったご意見、メッセージ、②長時間労働の是正や、産休・育休に対する配慮、労働生産性の向上などまさに働き方改革に通じる多数のご意見をいただき、会場の皆様に紹介させていただきました。このアンケートから病院長、病院側の考えと、実際に勤務する医師(医学生)の気持ち、願いを理解、共有することが出来ました。(ト部 優子)

「総合討論」

パネルディスカッションの後の質疑応答と最後の総合討論では会場の皆様から多くの質問が来ました。まず、県医師会の理事である木築先生から、キャリアの中で大学院を選択した際の生計について質問があり、これに対して、臨床医の立場と病理医の立場からそれぞれ回答がありました。

次に学生や育休中の若手医師から、復職後体力的に大変か、学会活動や当直は、外来や手術はこれまで

通りにできるのか、産休・育休中の給与は、など具体的な質問が次々と出ました。

パネリストからは、だんだん気持ちも体も慣れてくる、学会も早目に計画する、託児ありの学会も増えている、やる気があれば何とかなるなど、前向きのお答えが出ました。また、洲崎先生から、自分の体調がよくない時に無理して出勤するのがいいのかなと問題も提起していただきました。

今回はたくさんの学生さんにも参加していただき、総合討論ではすべての学生さんに、①参加しようと思ったきっかけ②どんな上司・先輩が理想かについて、自由に話していただきました。

①については、自分のキャリアについて考えたい、身近に子育てをしている医師がおらず先輩女性医師の働き方をきいてロールモデルとして参考にしたい等、働き続ける将来像を視ておられる意見が出ました。②については、ほとんどの方がコミュニケーションをとりやすい、相談しやすい上司をあげてくれました。他に、いろいろな人の意見が聴ける、仕事のon/offがはっきりしていてそのような環境を提供してくれる、自身も家事育児をしている等が出ました。私たちも自身を省みて職場環境を考えるきっかけになる意見を聴けました。その中で、「女性だから家事をしなくてはいけないという圧を感じた。育児をしないという選択もある」という意見があり、パネリストからも「キャリアを積む中でいろんな選択肢があり、今回の話は一つのサンプルとして考えてほしい」と賛意を示されました。学生からの鋭い先輩上司像を聴いて、パネリストも自分の上司としての姿を考えられたようで、率先して休みを取っていき、何でも話してもらえる上司になりたいと発言がありました。会場の皆様とパネリスト・当会議委員が一つのことについて考えていける場になったと感じました。(金 共子)

発行：滋賀県女性医師ネットワーク会議

会長	梅田 朋子	滋賀医科大学 地域医療教育研究拠点准教授/独立行政法人 地域医療機能推進機構滋賀病院 乳腺外科診療部長
副会長	ト部 優子	社会医療法人誠光会 草津総合病院 産婦人科統括部長
	西島 節子	彦根市立病院 小児科主任部長/滋賀県医師会理事
委員	有田 泉	高島市民病院 小児科科長
	加地 まり	加地眼科 院長/滋賀県医師会
	金 共子	日本赤十字社 大津赤十字病院 第二産婦人科部長
	山原 真子	滋賀医科大学 医師臨床教育センター副センター長 助教 (以上、五十音順)

お問い合わせ先：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学 クオリティマネジメント課内

(事務局)：滋賀県医師キャリアサポートセンター

TEL 077-548-3656 FAX 077-548-2522

E-mail : ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp

HP : <https://www.shiga-med.ac.jp/~ishicsc/>

滋賀県女性医師ネットワーク会議のサイト : <https://www.shiga-med.ac.jp/~ishicsc/doc/wdwm.html>